

1. はじめに

理学部長 林 政彦
理学研究科長 川 田 知

理学部・理学研究科では、本学部・研究科の教育・研究活動を総括するとともに学内外の人々にお知らせするために、2012年度から「理学部・理学研究科年報」を発行しています。本年報には2021年度の理学部・理学研究科の活動年譜、教員組織、学部・研究科の教育・研究活動、入学志願者の状況や就職状況、社会貢献、国際交流、各学科の研究室毎の活動状況等がまとめてあります。

理学部は1970（昭和45）年4月に応用数学科・応用物理学科・化学科の3学科で創設しました。1976年4月に理学研究科応用物理学専攻および化学専攻の各博士課程を、1990年4月に理学研究科応用数学専攻博士課程を設置しました。その後、1998年4月に地球圏科学科を、翌年4月に理学研究科地球圏科学専攻博士課程（修士課程は1997年4月）を増設しました。理学部は、「数学を含む自然科学領域の探究を通して社会の健全な発展に貢献する」という教育理念を基に、「基礎学力を十分に修得し、自然現象を幅広い視野から理解し、自ら問題を提起し、知識の活用ができる豊かな人間性をも兼ね備えた人材を育成する」ことに努めてきました。また、国際化・情報化、グローバル化の21世紀社会に対応し、既存の学問分野を融合した思考・発想ができる人材を育成するために、2008年4月に文理融合型の人材の育成を目指す「社会数理・情報インスティテュート」と「物理」と「化学」を柱とした「ナノサイエンス・インスティテュート」を設置し、さらに同年4月には応用物理学科を物理科学科に改称する改革に努めてきました。

2021年度の活動で特徴的なことが2つあります。1つは、2020年度からの新型コロナウイルス感染症拡大が変異株の発生を伴って断続的に継続する中、ウィズコロナ、ポストコロナの教育研究活動の模索が続けられたことです。福岡県では5月12日に第3回目、8月20日に第4回目の緊急事態宣言が発令されたほか、3度にわたりまん延防止等重点措置の対象区域の指定を受けました。このような中で、2021年度の授業は遠隔授業を併用しながら、原則対面授業を実施する努力をしてきました。前期定期試験は中止されましたが、後期定期試験は、2年ぶりに対面で実施しました。オープンキャンパスをはじめとして、授業以外のほとんどの企画は、2年続けて対面での実施を見送る中、遠隔での実施を模索してきました。また、海外への渡航についても大きく制限を受け、国際交流事業をほとんど行うことができませんでした。もう一つは、2021年12月より、理学部の将来構想に関する検討が改組の検討へ向けて大きく前進を始めたことです。これは、18歳人口の減少、社会情勢の変化、新型コロナウイルス拡大などによる2021年度入試における志願者数の大幅な減少を受けて、新しい理

学部への脱皮が必要であるとの共通認識が理学部の中にできつつありました。コロナウイルスの影響については、この年報でも報告いたします。

研究活動においては、国内外との共同研究や著名な外国人研究者の招聘など国際的なレベルで研究を進めています。また科学研究費をはじめ外部資金の獲得も積極的に行っています。「福岡から診る大気環境研究所」は、医学部眼科学教室との協力を軸に 15 機関（大学、研究所、企業等）19 名の学外研究員を迎え産学官連携事業を活発に行っています。本学キャンパスを、環境省の PM2.5 組成自動観測装置を含む総合観測サイトとして運用し、観測を軸とした PM2.5 の健康影響に係る研究を継続し、2022 年 3 月には公開シンポジウムを開催しました。第 62 次南極地域観測隊において無人航空機を用いた環境観測を行うために派遣していた越冬隊員が 2022 年 3 月に無事帰国しました。また、2019 年度から福岡大学基盤研究機関研究所の一つとして発足した「爆発天体研究所」は、コロナ禍の中、オンライン会議などを通じて成果発表を行い、12 機関（大学、研究所）、10 名の学外研究員（海外研究機関所属）と積極的な国際共同研究を推進し、多くの科学的成果を得ました。

本学部・研究科の社会貢献活動としては、地域の教育支援活動、地域との交流活動を推進しました。しかしこれらの活動もコロナ禍の中で、2021 年度も規模の縮小が継続しました。詳細は本年報をご参照願います。

教員の異動として、田中 勝教授が 2021 年 6 月 13 日に急逝されたことをご報告しなければなりません。研究科長としてご活躍中で、今後の理学部を支えていただくことを多くの方が切望されていた折のご逝去でした。心からお悔やみ申し上げます。

2021 年 4 月に、浅尾 泰彦（応用数学科）助教、佐藤 龍一（応用数学科）助教、吉武 愛（応用数学科）助手が着任されました。2022 年 3 月末に、寺田 貢教授（物理科学科）が定年退職され、奥野 充教授（地球圏科学科）、柳 青准教授（応用数学科）、保坂 亮介助教（応用数学科）、武藤 理沙助教（物理科学科）が退職されました。寺田先生、奥野先生は、長年にわたり理学部の教育・研究活動に携わってこられました。ここに改めて感謝の意を表します。退職されたすべての先生方の今後のご活躍を祈念いたします。また、2021 年 3 月に定年退職された大熊教授には 2021 年 5 月に福岡大学名誉教授の称号が授与されました。

国際交流事業では、2021 年度には応用数学専攻に Julio Rossi（ブエノスアイレス大学）、及び応用物理学専攻に Sungkyun Park（釜山大学）をそれぞれ招聘して大学院生の指導や教員との共同研究を行う予定でしたが、コロナ禍のため来日できませんでした。また、例年行っている蔚山大学との国際交流事業は、正課の授業も含めてコロナ禍で海外渡航ができませんでしたが、遠隔会議システムを使用して実施することができました。学生の海外研修は昨年度に続きコロナ禍で、該当者がいませんでした。